RICOH

RICOH Auto Color Adjuster

クイックガイド

Version 1.6.1.0

概要 1

はじめに 2

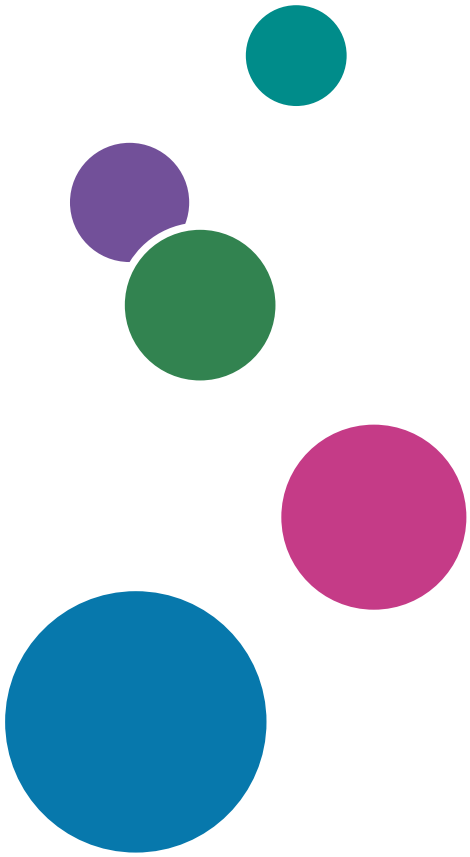
[かんたん色調整] 3

[色見本合わせ] 4

[カスタム測色] 5

こまったときには 6

本書に記載されていない情報については、製品のヘルプ・システムを参照してください。



はじめに

マニュアル

RICOH Auto Color Adjusterに関する追加情報は、他のマニュアルにも記載されています。

使用説明書

本機には以下の使用説明書が付属されています。

- 「RICOH Auto Color Adjuster：安全上の注意」
  スキャナーを安全に正しくお使いいただくための注意事項、各規制や環境対応について説明しています。スキャナーを操作する前に、このマニュアルをお読みください。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」
  必要なアプリケーションのインストール、RICOH Auto Color Adjusterのアップグレード、アプリケーションデータのバックアップまたはリストアの方法について説明しています。専用アプリケーションでスキャナーを使用する前に、このマニュアルをお読みください。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」
  アプリケーションの機能と各機能の操作方法について説明しています。また、エラーメッセージの原因を解決するための対処方法についても説明しています。
- 「RICOH Auto Color Adjuster：クイックガイド」
  アプリケーションの基本操作と、最も頻繁に使用される機能について説明しています。また、用紙詰まりを解決するためのトラブルシューティング手順も紹介しています。
- RICOH Auto Color Adjusterリリースノート
  新機能やアップデート、既知の制限事項、問題と対処方法、セキュリティー修正、コード変更要求など、RICOH Auto Color Adjusterリリースに関する情報を記載しています。

ガイドは英語、日本語、オランダ語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、韓国語、スペイン語で用意されています。リリースノートは英語版のみ提供されています。

「インストールガイド」、「ユーザーガイド」、「クイックガイド」、「リリースノート」 は、RICOH Software Information Center (https://help.ricohsoftware.com/swinfocenter/) または製品内のヘルプメニューからダウンロードできます。「安全上の注意」と「クイックガイド」は印刷され、製品に同梱されています。

RICOH Auto Color Adjuster Information Center

Information Center には、管理者、監督者、およびオペレーターがRICOH Auto Color Adjuster について学び、インストールし、使用するのに役立つトピックが含まれています。Information Centerにはクイックナビゲーションと検索機能が提供されています。

RICOH Auto Color Adjusterヘルプ

ヘルプシステムには、管理者、監督者、およびオペレーターがRICOH Auto Color Adjuster について学び、使用するのに役立つトピックが含まれています。RICOH Auto Color

Adjusterヘルプは、アプリケーションのユーザーインターフェースとWebのユーザーインターフェースの両方から利用できます。

使用説明書に使用されているマークの意味

本書では、内容をすばやく識別できるように、以下のマークを使用しています。

重要	本製品をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。また、用紙詰まりや原稿の破損、データの消失について、問題を引き起こしている可能性が高い原因も説明しています。以下の説明を必ずお読みください。
補足	機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。
［太字］	角括弧の［太字］はキー、メニュー、メニュー項目、フィールドラベル、設定、ボタンの名称を示します。
［］	大括弧は、キー、メニュー、メニュー項目、フィールドラベル、設定、ボタンの名前を示します。
斜体	*イタリック体*は、ユーザー独自の情報に置き換える変数を示します。
等幅フォント	等幅フォントは、コンピューターの入出力やファイル名を示します。

略語

本書では以下の略語を使用しています。

CGATS
グラフィックアート技術基準委員会

CMYK
シアン、マゼンタ、イエロー、キー（ブラック）

CSV
カンマ区切り値

DFE
デジタルフロントエンド

g
グラム

HTTPS
ハイパーテキスト転送プロトコル

ID
識別子

ICC

インターナショナルカラーコンソーシアム

IP

インターネットプロトコル

kg

キログラム

m

メートル

mm

ミリメートル

PDF

ポータブル文書形式

PDF/X

ポータブル文書形式 / レベルX

TXT

テキスト

USB

ユニバーサルシリアルバス

おことわり

本製品の故障による損害、文書やデータの消失による損害、その他本製品および使用説明書の使用または使用不能により生じた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

大切な文書やデータは、コピー（複製）をとってください。お客様が操作をミスした場合は、あるいは本製品に異常が生じた場合は、文書やデータが消失することがあります。また、コンピューターウイルス、ワーム、その他の有害なソフトウエア等に対する予防措置は、お客様の責任で講じてください。

お客様が本製品を使用して作成した文書やデータを運用した結果については、当社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

本書についてのご注意

- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 製品の改良または変更により、本書のイラストや記載事項とお客様の機械とが一部異なる場合がありますのでご了承ください。

- お住まいの国によって、特定のユニットはオプションになります。詳しくは、お買い上げの販売店にご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写、複製、改変、引用、転載することはできません。

商標

Command WorkStation®、Fiery®、Fieryロゴ、EFI®ロゴは、Electronics For Imaging, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

FOGRA®はFOGRA Forschungsgesellschaft Druck e.V.の登録商標です。

Idealliance®はPrinting United Allianceの登録商標です。

Japan Color及びジャパンカラーは一般社団法人日本印刷学会と一般社団法人日本印刷産業機械工業会の商標登録です。

本書に記載されているその他の製品名は、識別のためにのみ使用されており、各社の商標である場合があります。当社では、このような商標に関する一切の権利を否認します。

お問い合わせ

故障・保守サービスに関するお問い合わせ

故障・保守サービスについては、サービス実施店または販売店にお問い合わせくださ い。

修理範囲（サービスの内容）、修理費用の目安、修理期間、手続きなどをご要望に応 じて説明いたします。

転居の際は、サービス実施店または販売店にご連絡ください。転居先の最寄りのサー ビス実施店、販売店をご紹介いたします。

https://www.ricoh.co.jp/support/repair/

本製品に関する仕様・操作・修理のお問い合わせ

RICOH GC サポートデスク

0120-237-615

- 受付時間
  平日 / 9〜17 時（修理受付のみ 9:00〜17:30）
  土曜 / 9〜17 時（修理受付のみ。日、祝祭日及び弊社休業日は除く）
- 土曜日は、修理のみ受付させていただきます。
- お問い合わせの際、機番を確認させて頂きます。ご協力お願いいたします。
- 対応状況の確認と対応品質向上のため、録音させて頂いております。
- 弊社製品に関する消耗品は、お買い上げの販売店にご注文ください。

Web でのお問い合わせ

ホームページからもお問い合わせ、修理のお申し込み・ご相談を承っております。

https://www.ricoh.co.jp/contact/product.html

この説明書はリサイクルに配慮し製本しています。この説明書が不要になったときは、資源回収、リサイクルに出しましょう。

目次

はじめに

マニュアル ... 1
使用説明書に使用されているマークの意味 ... 2
略語 ... 2
おことわり ... 3
本書についてのご注意 ... 3
商標 ... 4
お問い合わせ ... 4

1 概要

機能 ... 9
必要なデバイスの設定 ... 9

2 はじめに

必要なアプリケーション ... 11
スキャナーをオンおよびオフにする ... 11
RICOH Auto Color Adjusterを表示する ... 12
デスクトップアプリケーションを表示する ... 12
Webアプリケーションを表示する ... 13
スキャンの準備をする ... 14
用紙の仕様 ... 14
給紙トレイに原稿またはカラーチャートをセットする ... 15

3 ［かんたん色調整］

かんたん色調整機能を使用する ... 17
カラーチャートを作成する ... 18
カラーチャートを印刷する ... 19
色を調整する ... 20
色を判定する ... 21
［管理コンソール］ページを使用する ... 22

4 ［色見本合わせ］

ワークフローの概要 ... 23
［色見本合わせ］機能を使用する ... 24
色合わせ用データを準備する ... 25
ICCプロファイルを作成する ... 28

5 ［カスタム測色］

ワークフローの概要 ... 33

カスタム測色チャートを追加する 34
　チャート情報ファイル 34
チャートの特徴を表示する 36
［カスタム測色］機能を使用する 36
6 こまったときには
用紙詰まり 39

1. 概要

•機能
•必要なデバイスの設定

RICOH Auto Color Adjuster機能の概要と必要なデバイスの設定について説明します。

機能

RICOH Auto Color Adjusterは、色調整、調整結果の判定、色合わせ、カスタム測色を効率的に実現するソリューションです。RICOH Auto Color Adjusterソリューションには、専用のソフトウェアアプリケーションと分光測色機が含まれます。分光測色機は色を正確に測定できるスキャナーです。

RICOH Auto Color Adjusterには以下の機能があります。

［かんたん色調整］

校正を実行したいプリンターで印刷されたカラーチャートを読み取り、そのプリンターの出力カラーを校正するのに役立つICCプロファイルを生成します。プリンターの状態や印刷環境の変化が印刷物の色の精度に影響するのを防ぐために、この機能を定期的に使用してください。

［管理コンソール］では、さまざまな色判定基準に従って色調整結果をモニターします。プリンターまたは用紙ごとに、判定結果の経時変化の記録を表示してエクスポートできます。

［色見本合わせ］

［色見本合わせ］機能を使用してスキャンされた印刷済みの原稿に基づいてICCプロファイルを生成します。生成されたICCプロファイルを使用して、印刷ページの色見本の色をできるだけ忠実に再現します。

［カスタム測色］

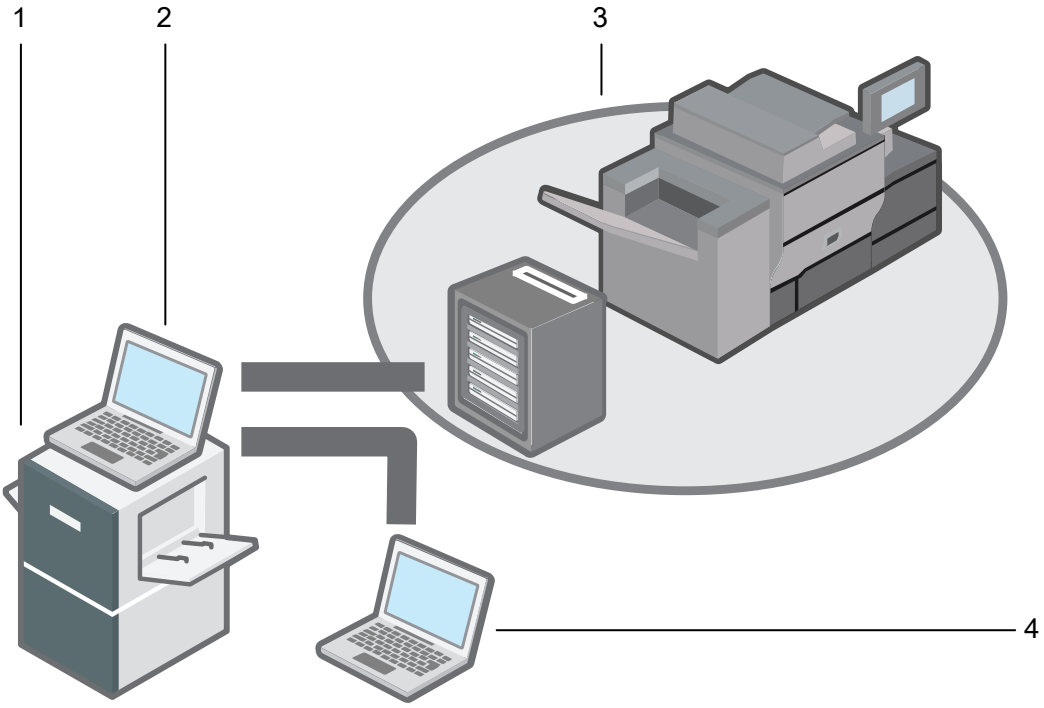
あらかじめ定義されたカラーチャートを使用したり、カスタムチャートを作成して、印刷されたテストチャートの色を測定することができます。カスタムカラーチャートは、校正結果を判定するためのカスタムカラースペースとして使用できます。測定結果を保存し、外部カラー管理アプリケーションを使用して管理できます。

補足

- ［カスタム測色］を除く各機能を使用するときは、機能ごとの契約が必要です。

必要なデバイスの設定

スキャナーの操作、Webアプリケーションへのアクセス、DFEへのICCプロファイルのインポートには、USB経由でスキャナーに接続されたコンピューターを使用します。オプションで、スキャナーに接続されたネットワークコンピュータを使用してWebアプリケーションにアクセスすることもできます。



1 スキャナー

2 スキャナー付属の2本のUSBケーブルでスキャナーに接続されているコンピューター。デスクトップアプリケーションからは［かんたん色調整］、［色見本合わせ］、［カスタム測色］の各機能に、Webアプリケーションからは［管理コンソール］、［構成］の各ページに、コンピューターを使用してアクセスします。

3 Fieryカラーコントローラー、TotalFlow Print Server 、またはその他のプリンター制御装置など、DFEを備えたプリンター。

4 オプション：Webアプリケーションから［管理コンソール］および［構成］ページにリモートアクセスするためのネットワークコンピューター。

補足

- 電源コードは100 V、1.5 A 以上、50/60-Hz の電源コンセントに接続します。電源プラグは必ずアース線を接続し てから、電源コンセントに直接、しっかりと接続してください。

2. はじめに

•必要なアプリケーション
•スキャナーをオンおよびオフにする
•RICOH Auto Color Adjusterを表示する
•スキャンの準備をする

この章では、スキャナーとRICOH Auto Color Adjusterアプリケーションの使用に関する基本情報を提供します。

必要なアプリケーション

スキャナーを使用するには、付属のUSBケーブルでスキャナーに接続しているコンピューターに、以下のアプリケーションをインストールしてください。

RICOH Auto Color Adjuster

［かんたん色調整］、［色見本合わせ］、［カスタム測色］の機能を搭載した専用のアプリケーション。

Fiery Command WorkStation

［かんたん色調整］機能で作成されたICCプロファイルをFiery DFEに自動インポートするための、Fieryコントローラーでのみ使用されるアプリケーション。この機能をFieryコントローラーで使用するには、Fiery Command WorkStationの言語を英語または日本語に設定してください。

補足

- アプリケーションのインストール方法については、「RICOH Auto Color Adjuster：インストールガイド」を参照してください。

スキャナーをオンおよびオフにする

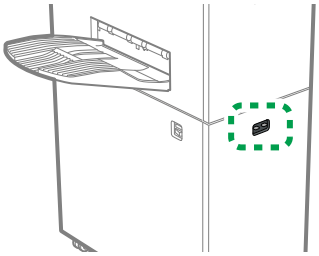
スキャナー電源を入れたり切ったりするときは、スキャナーの左側にある電源スイッチを使用します。

重要

- スキャナーの電源を切った後、すぐに電源を入れないでください。スキャナーの電源を入れ直す前に、インジケーターライトが少なくとも10秒間消灯したままになるまで待ちます。

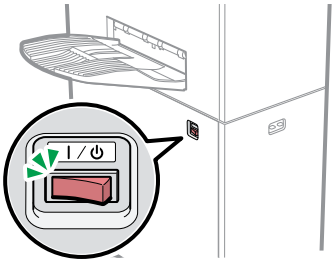
スキャナーのオン/オフを切り替えるには、以下の操作を行います。

1. 電源コードのプラグをコンセントにしっかりと差し込みます。
2. スキャナーの電源インジケーターを確認してください。
    - インジケーターが青色の場合は、スキャナーの電源が入っています。
    - インジケーターが点灯していない場合は、スキャナーの電源がオフになっています。
    - インジケーターが赤色の場合、スキャナーはエラー状態です。

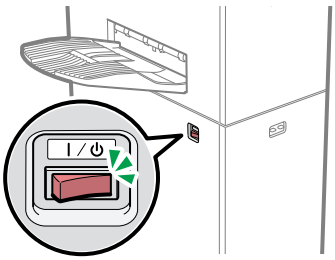


2

3. スキャナーの電源を入れるには、スキャナーの左側にある電源スイッチを入れます。



4. スキャナーの電源を切るには、スキャナーの左側にある電源スイッチを切ります。



RICOH Auto Color Adjusterを表示する

スキャナーを操作するには、RICOH Auto Color Adjusterアプリケーションを使用します。RICOH Auto Color Adjuster、デスクトップアプリケーションとWebアプリケーションの2つのコンポーネントがあります。

デスクトップアプリケーションを表示する

［かんたん色調整］、［色見本合わせ］、［カスタム測色］の機能を操作するには、デスクトップアプリケーションを使用します。

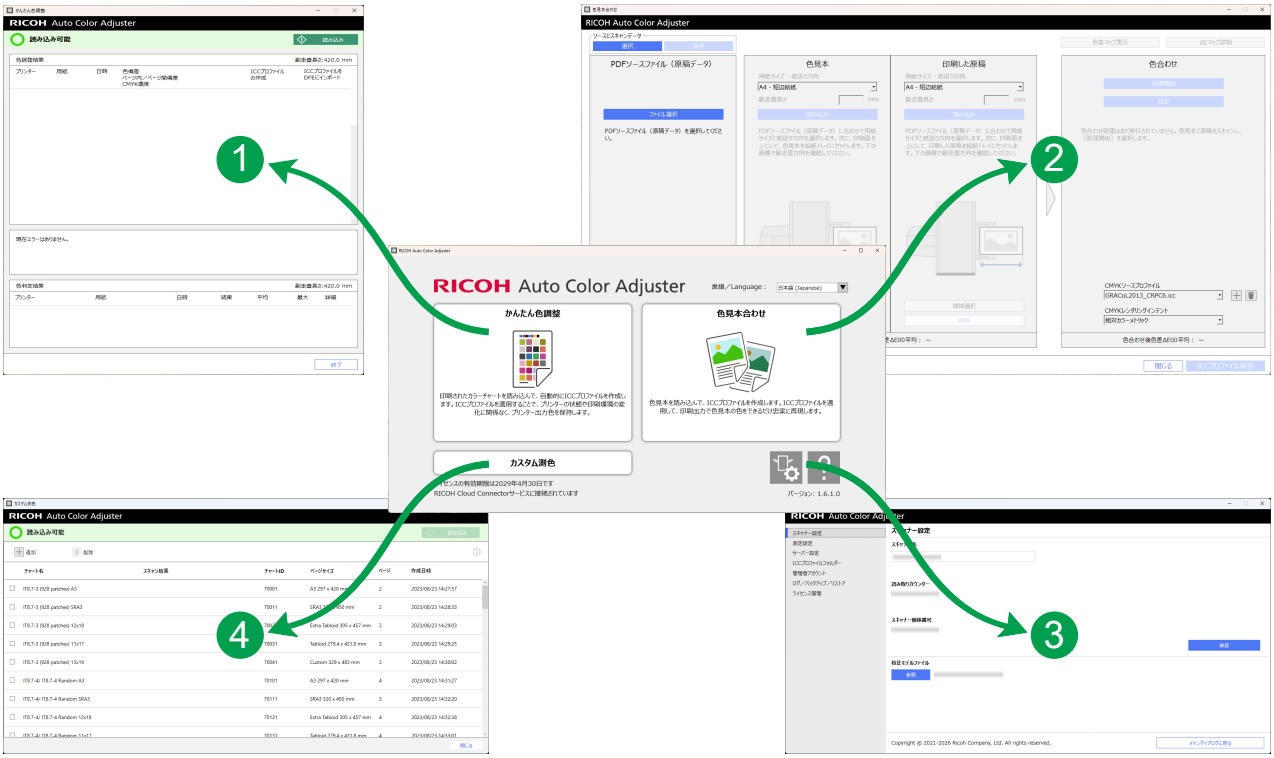
デスクトップアプリケーションを表示するには、次の手順を実行します。

1. USBケーブルでスキャナーに接続しているコンピューターを起動します。
2. デスクトップアプリケーションを起動するには、［RICOH］ をダブルクリックします。
   RICOH Auto Color Adjusterアプリケーションが表示されます。

デスクトップアプリケーションの概要

RICOH Auto Color Adjusterダイアログでは、［かんたん色調整］(1)、［色見本合わせ］(2)、［カスタム測色］(4)の機能を起動し、［設定］ページ(3)にアクセスできます。

また、［ヘルプ］ボタン（？）をクリックしてオンラインヘルプを表示することもできます。



Webアプリケーションを表示する

Webアプリケーションを使用して、さまざまな色判定基準に基づく色調整結果を見ることができます。Webアプリケーションでは、ユーザー、カラーチャート、その他カラーチャートに必要なオブジェクトを作成、編集することもできます。

Webアプリケーションを表示するには、次の手順を実行します。

1. USBケーブルでスキャナーに接続しているコンピューターを起動します。
2. サーバーのIPアドレスとポート番号を確認します。
3. Webブラウザーを開きます。
4. アドレスバーに、次のようにIPアドレスとポート番号を入力します：`https://(IPアドレス):(ポート番号)`。ポート番号が「80」の場合、コロンとポート番号は省略できます。
5. ［ユーザー名］と［パスワード］を入力します。

補足

- デフォルトのユーザー名とパスワードは次のとおりです。
  - ユーザー名：admin
  - パスワード ：admin

ログインすると、役割によって定義されたアクションを実行できます。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
Webアプリケーションが表示され、ナビゲーションバーと［管理コンソール］ページのコンテンツが表示されます。

6. ［構成］ページを表示するには、［構成］を選択します。
7. Webアプリケーションからサインアウトするには、ナビゲーションバーで、［アカウント］ボタン（）を選択します。次に、［サインアウト］を選択します。

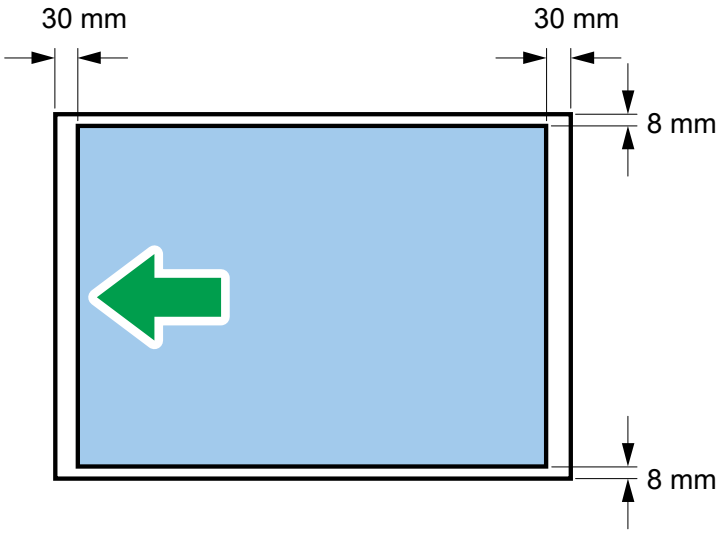
スキャンの準備をする

RICOH Auto Color Adjuster機能のいずれかを使用する際の最初のステップの1つは、印刷されたカラーチャートまたは色見本をスキャンすることです。

用紙の仕様

スキャナーは、以下の仕様を満たすスキャン用紙に対応しています。

項目	概要
用紙種類	上質紙、コート紙、マット紙、アート紙
用紙幅	［色見本合わせ］：210～330.2mm（8.3～13 inch） ［かんたん色調整］：297～330.2 mm（11.7～13 inch） ［カスタム測色］：210～330.2mm（8.3～13 inch）
用紙長さ	［色見本合わせ］：210～487.7mm（8.3～19.2 inch） ［かんたん色調整］：420～487.7 mm（16.5～19.2 inch） ［カスタム測色］：279.4～482.6 mm（11～19 inch）
紙厚	73.3～279.0g/m^2（63～240kg：5×7.4 inch 四六判）

項目	概要
枚数	104g/m²のグロスコート紙使用時：70枚
読み取り領域	スキャナーは以下の青い部分を読み取ります。 

給紙トレイに原稿またはカラーチャートをセットする

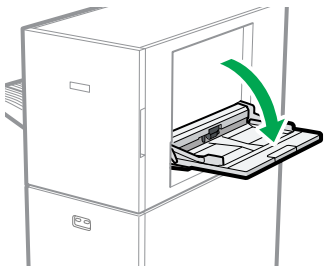
この手順では、給紙トレイに原稿またはカラーチャートを配置する方法について説明します。

重要

- 折れ、しわ、強いカール、またはつなぎ合わせた用紙を給紙トレイに置かないでください。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
- 他の用紙が残っている場合は、二重給紙を引き起こす可能性があるため、原稿やカラーチャートを給紙トレイに置くことは避けてください。
- 原稿やカラーチャートがコート紙や傷つきやすいメディアに印刷されている場合、紙にかすかな筋や線状の跡が現れることがあります。

給紙トレイに原稿やカラーチャートを配置するには、以下の操作を行います。

1. 給紙トレイを開きます。



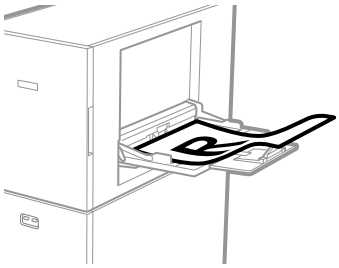
2. 原稿やカラーチャートが給紙トレイより長い場合は、トレイを引き出してください。



補足

- 縦置きでA4を超える原稿やカラーチャートは、給紙トレイからはみ出します。

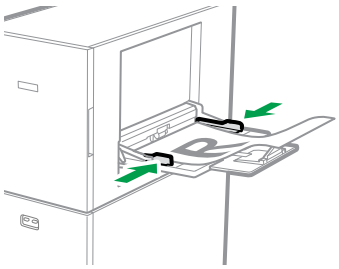
3. スキャンしたい面が上になるように注意して、原稿またはカラーチャートを給紙トレイにそっとセットします。



補足

- 原稿またはカラーチャートを給紙トレイに置く際は、上限表示（）を超えないようにしてください。この制限を超えると、スキャンが斜めになったり、用紙詰まりが発生したりすることがあります。

4. 用紙サイズに合わせて用紙ガイド板を調整します。



3. ［かんたん色調整］

•かんたん色調整機能を使用する
• ［管理コンソール］ページを使用する

色調整および色判定機能は、大量印刷実行前、メンテナンス後、温度や湿度が変化したとき、またはプリンターの画質を調整した後に使用します。まず、色調整機能を使ってICCプロファイルを生成し、そのICCプロファイルをDFEに読み込み、色判定機能を使用します。

［管理コンソール］ページを使用して、個々のプリンターまたは用紙の色判定結果を経時的に監視します。

かんたん色調整機能を使用する

［かんたん色調整］機能を使用してプリンターのカラー出力を調整し、結果を評価します。

色を調整するには、Webアプリケーションでカラーチャートを作成し、カラープロファイルチャートを印刷します。次に、［かんたん色調整］機能を使用してスキャンします。スキャン処理が完了すると、ICCプロファイルが作成され、DFEにアップロードされます。RICOH Auto Color Adjusterが特定のDFEへのICCプロファイルの自動インポートに対応していない場合は、生成されたICCプロファイルを手動でインポートしてください。

色を判定するには、ターゲットプリンターで色判定チャートを印刷します。次に、［かんたん色調整］機能を使用してスキャンします。スキャン処理が完了すると、［かんたん色調整］ダイアログに結果が表示されます。



カラーチャートを作成する

［かんたん色調整］機能を使用するには、Webアプリケーションでカラーチャートを作成します。

カラーチャートを作成するには、以下の操作を行います。

1. ［ロケーション］ページで、ロケーションを追加します。
2. ［プリンター］ページで、プリンターを追加し、そのロケーションと関連付けます。
3. ［用紙リスト］ ページで、用紙を追加します。
4. ［カラーチャート］ページでチャートを作成し、既存のプリンターと用紙に関連付けます。
5. ［デフォルト設定］ページで、デフォルトの［色調整閾値］と［色判定閾値］を［かんたん色調整］機能用にカスタマイズします。この関数は、色の平均偏差と最大偏差が指定された範囲内にあり、選択された［色判定］標準の許容範囲に適合しているかどうかを判定します。

カラーチャートを印刷する

ホットフォルダーが有効になっている場合は、Webアプリケーションからカラーチャートを印刷に送るか、またはダウンロードしてプリンターアプリケーションを使用してプリンターに送ることができます。

重要

- バージョン1.5.2.0以前から移行した場合は、必ず現在のアプリケーションバージョンで生成された新しいカラーチャートを印刷してください。
- すべてのカラーチャートは、用紙の片面のみに印刷してください。

トレイにセットされている用紙は、［カラーチャート］ページに表示されているチャートの用紙の種類と一致させてください。［カラーチャート］ダイアログを表示するには、［構成］ページに移動します。

Webアプリケーションからカラーチャートを印刷する

Webアプリケーションからカラーチャートを印刷するには、DFEでホットフォルダーオプションが有効になっていることを確認してください。

Webアプリケーションからカラーチャートを印刷するには、以下の操作を行います。

1. プリンターDFEで、または印刷管理アプリケーションを使用して、カラープロファイルチャートを印刷に送信するためのホットフォルダーと、色判定チャートを印刷に送信するためのホットフォルダーを作成します。詳細については、DFEまたは印刷管理アプリケーションのユーザーマニュアルを参照してください。
2. カラープロファイルと色が判定チャートに必要な印刷設定でホットフォルダーを構成します。詳しくは、P. 20 「カラープロファイリングチャートを印刷する」とP. 20 「色判定チャートを印刷する」を参照してください。印刷設定の詳細については、「RICOH Auto Color Adjusterユーザーガイド」を参照してください。ホットフォルダーの作成方法の詳細については、DFEのユーザーマニュアルを参照してください。
3. Webアプリケーションで、カラーチャートの［カラーチャート編集］ページに移動し、プロファイリング チャートと判定チャートを印刷に送信するために使用するホットフォルダーパスを選択します。
4. ［カラーチャート］のページに移動してください。
5. 印刷したいカラーチャートの横にあるチェックボックスを選択します。
6. 選択したチャート行の印刷カラープロファイリングチャートを印刷するには、［カラープロファイリングチャート印刷］ボタン（🖶）を選択します。
7. 選択したチャート行の色判定チャートを印刷するには、［色判定チャート印刷］ボタン（🖶）を選択します。
8. また、展開された行内で［印刷］ボタンを選択すると、カラーチャートを印刷することもできます。

カラーチャートが印刷に送られると、プリンターキューで確認することができます。

カラープロファイリングチャートを印刷する

カラープロファイリングチャートを印刷するために必要な一般的な設定について説明します。ファイルの送信からプリンターへの最終出力までのワークフロー全体を通して、汎用印刷設定を適用します。

カラープロファイリングチャートを印刷するには、以下の操作を行います。

1. すべてのプロファイリングチャートページを用紙の片面のみに印刷します。
2. カラープロファイルチャートを印刷に送信する場合は、選択したカラーマネージメント設定がチャートのCMYKカラーに影響しないことを確認してください。
3. 用紙の種類、用紙サイズ、用紙重量をカラープロファイルチャートに合わせて選択します。

色判定チャートを印刷する

色判定チャートを印刷するために必須の一般的な設定について説明します。

色判定チャートを印刷するには、以下の操作を行います。

1. カラープロファイルチャートを印刷に送信する場合は、RICOH Auto Color Adjusterアプリケーションで作成したICCプロファイルを適用します。
2. 用紙の種類、用紙サイズ、用紙坪量を色判定チャートに合わせて選択します。
3. CMYK色判定基準オプションがある場合は、［カラーチャート］ページに表示されている［色判定］値に関連する判定基準を選択します。
4. CMYKレンダリングインテントオプションがある場合は、［相対カラーメトリック］に設定します。

色を調整する

カラーチャートを読み込んでDFEに作成したプロファイルをインポートすることで、印刷される色を調整します。ICCプロファイルのインポートの詳細については、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」 を参照してください。

色を調整するには、以下の操作を行います。

1. ［カラーチャート］ページで、印刷したいカラーチャートPDFを探します。
2. ターゲットプリンターと必要な印刷設定を使用して、カラープロファイルチャートを印刷します。ホットフォルダーオプションが有効になっている場合は、Webアプリケーションから、またはプリンターから直接、カラーチャートを印刷に送信できます。詳しくは、P. 19 「 カラーチャートを印刷する」を参照してください。
3. 安定したカラー出力を得るには、カラーチャートを複数部印刷し、最後に印刷したものを使用してください。
4. ICCプロファイル作成用のカラーチャートを、印刷済みの面を上にして給紙トレイに置きます。

5. デスクトップアプリケーションを起動するには、［RICOH］アイコン（）をダブルクリックします。
6. ［RICOH Auto Color Adjuster］ダイアログで、［かんたん色調整］を選択します。
7. ［かんたん色調整］ダイアログで、［読み込み］を選択します。
［チャート読み取り］ダイアログが表示されます。
8. ［チャート読み取り］ダイアログで、［読み取り開始］を選択します。
スキャナーでICCプロファイル作成用チャートの読み取りが開始され、ICCプロファイルが自動で作成されます。
9. ［かんたん色調整］ダイアログで、［色調整結果］をチェックします。正常に完了した処理の背景色はグリーンです。
    1. 色差値が表示され、設定した閾値以内であることを確認します。
    2. アプリケーションがICCプロファイルを正常に作成したことを確認します。
    3. サポートされているDFEタイプを使用している場合は、アプリケーションがICCプロファイルをDFEに自動的にインポートしたことを確認してください。
10. 表示された色差に対して警告が表示されても、カラープロファイルは作成され、DFEにインポートされます。ただし、警告を発生させる問題を解決するには、［かんたん色調整］ダイアログのメッセージボックスに表示される指示に従ってください。
11. 色調整中にエラーが発生した場合は、［かんたん色調整］ダイアログのメッセージボックスに表示される指示に従ってください。トラブルシューティングの詳細については、「RICOH Auto Color Adjusterユーザーガイドを」参照してください。
12. ［かんたん色調整］ダイアログを閉じるには、［終了］を選択します。
13. DFEがRICOH Auto Color AdjusterからのICCプロファイルの自動インポートをサポートしていない場合は、生成されたICCプロファイルを手動でインポートします。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

色を判定する

プリンターの色調整の結果を判定します。

色を判定するには、以下の操作を行います。

1. ［カラーチャート］ページで、印刷したいカラーチャートPDFを探します。
2. ターゲットプリンターと必要な印刷設定を使用して、色判定チャートを印刷します。ホットフォルダーオプションが有効になっている場合は、Webアプリケーションから、またはプリンターから直接、カラーチャートを印刷に送信できます。詳しくは、P. 19 「カラーチャートを印刷する」を参照してください。
3. 安定したカラー出力を得るには、カラーチャートを複数部印刷し、最後に印刷したものを使用してください。
4. 色判定チャートを、印刷済みの面を上にして給紙トレイに置きます。
5. デスクトップアプリケーションを起動するには、［RICOH］アイコン（）をダブルクリックします。

6. ［RICOH Auto Color Adjuster］ダイアログで、［かんたん色調整］を選択します。
7. ［かんたん色調整］ダイアログで、［読み込み］を選択します。
   ［チャート読み取り］ダイアログが表示されます。
8. ［チャート読み取り］ダイアログで、［読み取り開始］を選択します。
   スキャナーは色判定チャートのスキャンを開始し、スキャン結果を表示します。
9. ［かんたん色調整］ダイアログで、［色判定結果］をチェックします。
10. ［結果］列に が表示された場合は、判定処理を繰り返します。
    1. ［詳細］ ボタンを選択すると、色判定の詳細が表示されます。
    2. 印刷設定が正しく、用紙が選択した規格に合っていることを確認してください。
    3. ［かんたん色調整］をもう一度実行します。
    4. 色判定が再度失敗した場合は、色調整と判定手順をすべて繰り返します。
11. 処理が完了したら、［終了］を選択します。

補足

- ［OK］/［NG］ の色判定結果は、別の測色器で得られた結果と異なる場合があります。

［管理コンソール］ページを使用する

［管理コンソール］ページを使用して、プリンターのカラー出力の経時変化を監視します。

［管理コンソール］ページを使用するには、次の手順を実行します。

1. ［かんたん色調整］関数を使用して、同じ［色判定］標準に基づく少なくとも 2 つの色判定を実行します。
   色判定結果は、［管理コンソール］ページのグラフに表示されます。
2. ［管理コンソール］ページでは、左ペインのオプションとグラフの下のオプションを使用して、グラフに表示するデータをカスタマイズします。
3. 左ペインで選択したオプションに基づいてグラフデータをCSV形式でエクスポートして表示するには、［書き出し］ボタン（ ）を選択します。

4. ［色見本合わせ］

•ワークフローの概要
• ［色見本合わせ］機能を使用する

［色見本合わせ］色見本の色を測定し、その文書とターゲットプリンターに固有のICCプロファイルを生成することで、その色を再現できます。作成したICCプロファイルをDFEのソースCMYK入力プロファイルとして手動でインポートし、原稿印刷時にそのプロファイルを使用します。

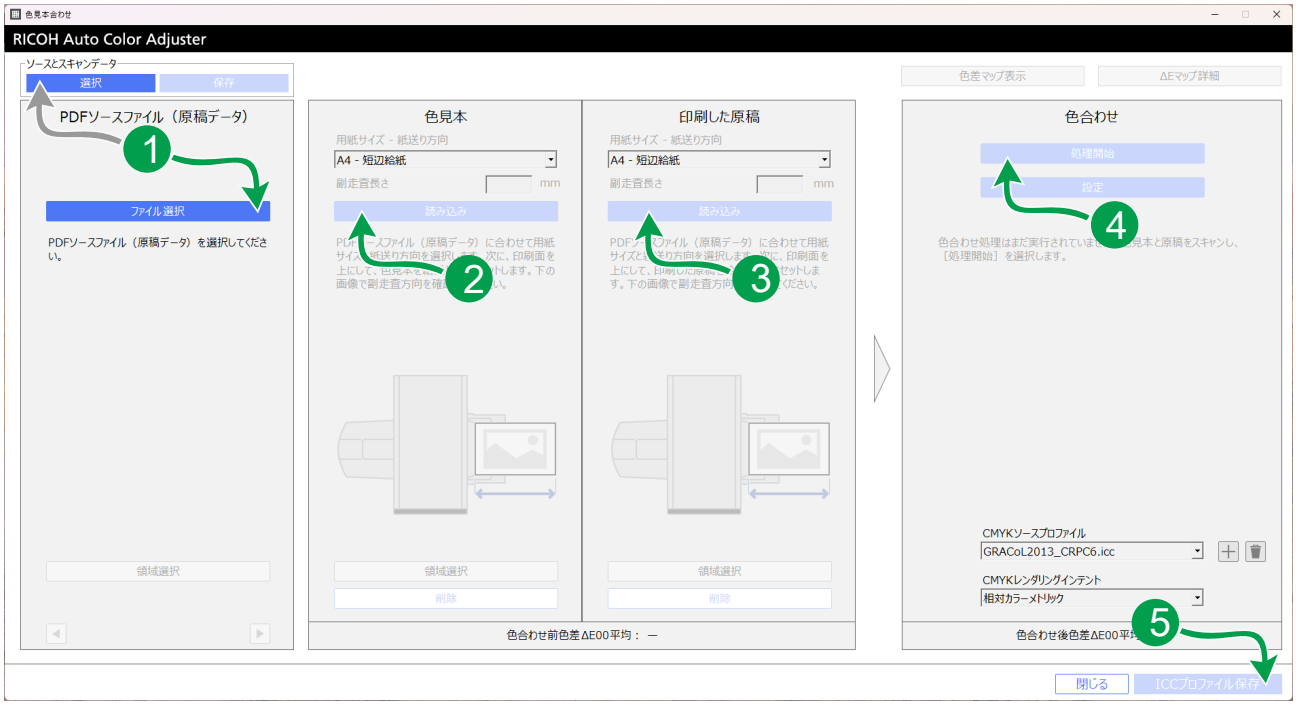
作成したICCプロファイルを使用して、印刷ページの色見本の色調をできるだけ忠実に再現します。

ワークフローの概要

色見本をスキャンし、PDFソースファイル（原稿データ）を印刷してスキャンします。その後、［色見本合わせ］機能を使って、色を比較し、一致させます。色合わせ処理で生成されたICCプロファイルを使用して、ドキュメントのカラーが色見本のカラーとほぼ一致するように印刷します。

準備するもの

- PDFソースファイル（原稿データ）
- 色見本
- 印刷した原稿



［色見本合わせ］機能を使用するには、PDFソースファイル（原稿データ）の(1)を読み込み、色見本の(2)と印刷した原稿の(3)をスキャンします。次に、ICCプロファイルを生成するためのデータ処理を開始します(4)。アプリケーションがデータ処理を終えたら、ICCプロファイルを保存します(5)。

補足

- 保存されたPDFソースファイルの原稿データと保存された色見本データがあれば、それを読み込むことができます。

画像領域を選択する

［PDFソースファイル（原稿データ）］セクションで、［領域選択］ボタンを選択します。次に、色合わせに使用する画像領域を選択します。画像を時計回りまたは反時計回りに回転させることもできます。

各ページが別々に印刷される面付けされたドキュメントのページで色を合わせる場合は、すべてのページで同じ領域と向きを選択すると、再現される色の品質が向上します。［位置合わせエラー］が表示された場合は、［PDFソースファイル（原稿データ）］、［色見本］、［印刷した原稿］の各セクションで同じ画像領域と向きを選択していることを確認してください。

複数ページのある文書を使用する

最適な色見本合わせ結果を得るには、PDFソースファイル（原稿データ）から最大15ページを使用してください。PDFのページを参照するには、［PDFソースファイル（原稿データ）］セクションで［次へ］ボタン（▶）および［前へ］ボタン（◀）を使用します。次に、［印刷した原稿］セクションで、色を合わせるために使用したい印刷ページをそれぞれスキャンします。

生成されたICCプロファイルを使用する

ターゲットプリンターの印刷設定で、［色見本合わせ］機能を使用して生成されたICCプロファイルを選択します。印刷設定は使用しているDFEによって異なります。必要な印刷設定の詳細については、「RICOH Auto Color Adjusterユーザーガイドを」参照してください。DFEへのICCプロファイルのインポートの詳細については、DFEのユーザーマニュアルを参照してください。

印刷ジョブの印刷設定で生成されたICCプロファイルを選択した後、PDFソースファイル（原稿データ）を印刷します。

［色見本合わせ］機能を使用する

この機能は、色見本の色と印刷した原稿の色を一致させながら文書を印刷します。単一ページの文書を使用した色合わせの手順について説明します。

前提条件

- 事前に画像濃度調整を実行しておくことを推奨します。
- プリントトレイにセットされた用紙サイズはPDFの用紙サイズと一致しており、エラーがありません。
- スキャナーインジケーターに赤ランプが点灯しません。
- デスクトップRICOH Auto Color Adjusterアプリケーションが起動し、エラーが発生していません。
- ［色見本合わせ］に使用する色見本の CMYK 画像を含むPDFソースファイル（原稿データ）を選択します。

- PDFの用紙サイズと同じ用紙で原稿を印刷します。

色合わせ用データを準備する

色合わせ用のデータを準備するには、PDFソースファイル（原稿データ）を選択し、色見本と印刷した原稿をスキャンします。

補足

- PDFを複数部印刷し、最後に印刷された1部を使用します。
- ［色見本］および［印刷した原稿］セクションで、実際の見本と異なる用紙サイズを選択すると、用紙詰まりが発生する場合があります。

色合わせ用のデータを準備するには、以下の操作を行います。

1. ターゲットプリンターで必要な印刷設定を使用してPDFファイルを印刷します。詳しくはP. 26 「Fieryを使用して原稿を印刷する」 、P. 27 「TotalFlow Print Serverを使用してカットシートプリンターで原稿を印刷する」 、P. 27 「RICOH Pro VC80000を使用した原稿を印刷する」 をご覧ください。

   重要

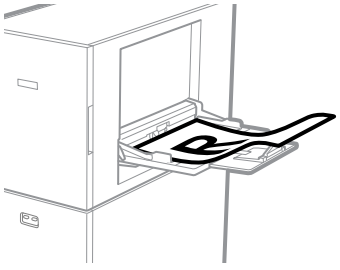
   - 印刷時は原稿データの拡大や縮小はしないでください。

2. ［RICOH Auto Color Adjuster］ダイアログで、［色見本合わせ］を選択します。
   ［色見本合わせ］ダイアログが表示されます。

   補足

   - 画面に表示されている項目を左から右に操作します。

3. ［色合わせ］セクションの［CMYKソースプロファイル］フィールドでプロファイルを選択します。
4. 保存した色見本がない場合は、スキャンしてください。
   1. ［PDFソースファイル（原稿データ）］セクションで、［ファイル選択］ボタンを選択します。
   2. ［PDFソースファイル（原稿データ）選択］ダイアログで、色見本の画像を含むPDFソースファイル（原稿データ）を選択します。
      選択したPDFファイルの画像が［PDFソースファイル（原稿データ）］セクションに表示されます。
   3. スキャンしたい面を上にして、色見本を給紙トレイに置きます。

   4. ［色見本］セクションで、見本の用紙サイズと給紙方向を選択します。

5. ［不定形］を選択した場合は、［副走査長さ］のフィールドに副走査方向の用紙長を入力します。
6. ［色見本］セクションで、［読み込み］を選択します。
スキャン処理が完了すると、スキャン画像が［色見本］セクションに表示されます。

5. 保存した色見本データがあれば、それを読み込んでください。
1. ［選択］を選択します。
2. ［フォルダー選択］ダイアログで、保存した色見本データを含むフォルダーを選択します。
3. ［フォルダー選択］をクリックします。
PDFソースファイル（原稿データ）と色見本が［色見本合わせ］ダイアログに表示されます。
6. 印刷した原稿を、印刷面を上にして給紙トレイに置きます。
7. ［印刷した原稿］セクションで、原稿の用紙サイズと給紙方向を選択します。
8. ［不定形］を選択した場合は、［副走査長さ］のフィールドに副走査方向の用紙長を入力します。
9. ［印刷した原稿］セクションで、［読み込み］を選択します。
スキャン処理が完了すると、スキャン画像が［印刷した原稿］セクションに表示されます。
10. ICCプロファイルの作成プロセスに進みます。詳しくは、P. 28 「ICCプロファイルを作成する」を参照してください。

Fieryを使用して原稿を印刷する

Fiery DFEを使用した原稿の印刷に使用する設定について説明します。

Fieryを使用して原稿を印刷するには、以下の操作を行います。

1. Fiery Command WorkStationを起動します。
2. 印刷ジョブを選択し、［プロパティー］を選択します。
ジョブプロパティーダイアログが表示されます。
3. ジョブプロパティーダイアログの左ペインで、［カラー］を選択します。
4. ［出力プロファイル］を使用する用紙に合わせたプロファイルに設定するか、［かんたん色調整］を使用して更新したプロファイルを選択します。
5. ［CMYKソース］フィールドで、プロファイルを選択します。

重要

- ［ColorWiseOFF］と［変換を省略］のオプションを選択しないでください。

6. ［埋め込みCMYKプロファイルを使用］のチェックを外します。
7. ［スポットカラーマッチング］のチェックを外します。
8. ［PDF/X出力インテント］のチェックを外します。

TotalFlow Print Serverを使用してカットシートプリンターで原稿を印刷する

カットシートプリンターを使用してTotalFlow Print Server DFEで原稿を印刷するのに必要な設定について説明します。

カットシートプリンターを使用してTotalFlow Print Serverで原稿を印刷するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Print Server DFEで、ジョブプロパティーダイアログを開きます。
2. ジョブプロパティーダイアログの左ペインで、［カラー］を選択します。
3. ［入力プロファイル］セクションを展開し、［CMYK入力プロファイル］フィールドで値を選択します。

   重要

   - ［パススルー］オプションを選択しないでください。
4. ［CMYK入力］の隣に表示される［埋め込みプロファイルを使用］フィールドを［しない］に設定します。
5. ［プリンタープロファイル］ セクションを展開し、［プリンタープロファイル（おもて面）］ を使用する用紙に合ったプロファイルに設定するか、［かんたん色調整］で更新したプロファイルを選択します。
6. ［スポットカラーマッチング］を［しない］に設定します。
7. ［詳細設定］セクションを展開し、［PDF/X出力インテントを使用］を［しない］に設定します。

RICOH Pro VC80000を使用した原稿を印刷する

RICOH Pro VC80000を使用して原稿を印刷するのに必要な設定について説明します。これらの印刷設定をプリンター1とプリンター2の両方に適用します。

RICOH Pro VC80000を使用して原稿を印刷するには、以下の操作を行います。

1. TotalFlow Print Server DFEで、設定ページに移動します。
2. 左ペインで、［設定］を選択します。
3. ［解像度／速度］を選択し、ドライヤー温度と［フラッシング］のタイプを設定します。
4. 設定ページの左ペインで、［基材］を選択します。
5. ［基材］フィールドで、リストから基材を選択し、ロードします。
6. 基材を追加したい場合は、その名前と値を指定します。次に、新しい基材をセットします。
7. 設定ページの左ペインで、［カラーマネジメント］→［設定］を選択します。
8. ［カラー/白黒］フィールドを ［カラー］に設定します。
9. 左ペインで［印刷品質］を選択します。
10. ［インク量規制］と［トーンカーブ］を選択します。
11. ジョブページに移動します。

12. 印刷ジョブを選択し、［編集］ボタン（✎）を選択します。
ジョブプロパティーダイアログが表示されます。
13. ［基本設定］セクションで、［印刷面］を選択します。
14. ジョブプロパティーダイアログの左ペインで、［用紙］を選択します。
15. ［用紙］フィールドで、一覧からいずれかの用紙を選択します。

補足

- ［不定形］を選択した場合は、用紙の［幅］と［長さ］を指定します。

16. ジョブプロパティーダイアログの左ペインで、［カラー］を選択します。
17. ［入力プロファイル］セクションを展開し、［CMYK入力プロファイル］フィールドで値を選択します。

重要

- ［パススルー］オプションを選択しないでください。

18. ［CMYK入力］の隣に表示される［埋め込みプロファイルを使用］フィールドを［しない］に設定します。
19. ［プリンタープロファイル］ セクションを展開し、［プリンタープロファイル（おもて面）］および［プリンタープロファイル（うら面）］を使用する用紙に合ったプロファイルに設定するか、［かんたん色調整］で更新したプロファイルを選択してください。
20. ［スポットカラーマッチング］を［しない］に設定します。
21. ［詳細設定］セクションを展開し、［PDF/X出力インテントを使用］を［しない］に設定します。

ICCプロファイルを作成する

ICCプロファイルを作成するには、色見本の色を、［印刷した原稿］セクションに表示される原稿画像の色に合わせます。そして、生成されたICCプロファイルを保存します。

ICCプロファイルを作成するには、以下の操作を行います。

1. **オプション**：［色合わせ］セクションで、［設定］を調整して色を合わせます。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。
2. PDFの印刷に使用されたICCプロファイル名を特定してください。

補足

- ICC ロファイルがDFEタイプに固有であることを示すフィールド名。Fieryの名前は［CMYK ソース］です。TotalFlow Print Serverのフィールド名は［CMYK入力］です。
- 印刷ジョブのICCプロファイルを識別する手順については、DFEのユーザーマニュアルを参照してください。

3. PDFの印刷に使用するICCプロファイルが、［色合わせ］セクションの［CMYKソースプロファイル］リストにない場合は、DFEからエクスポートしてください。ICCプ

ロファイルのエクスポート方法については、DFEのユーザーマニュアルを参照してください。

4. ［色合わせ］セクションで、ステップP. 28 「2」の手順で特定した［CMYKソースプロファイル］を選択します。CMYKソースプロファイルがリストにない場合は、ステップ「3」の手順でエクスポートしたファイルを追加します。

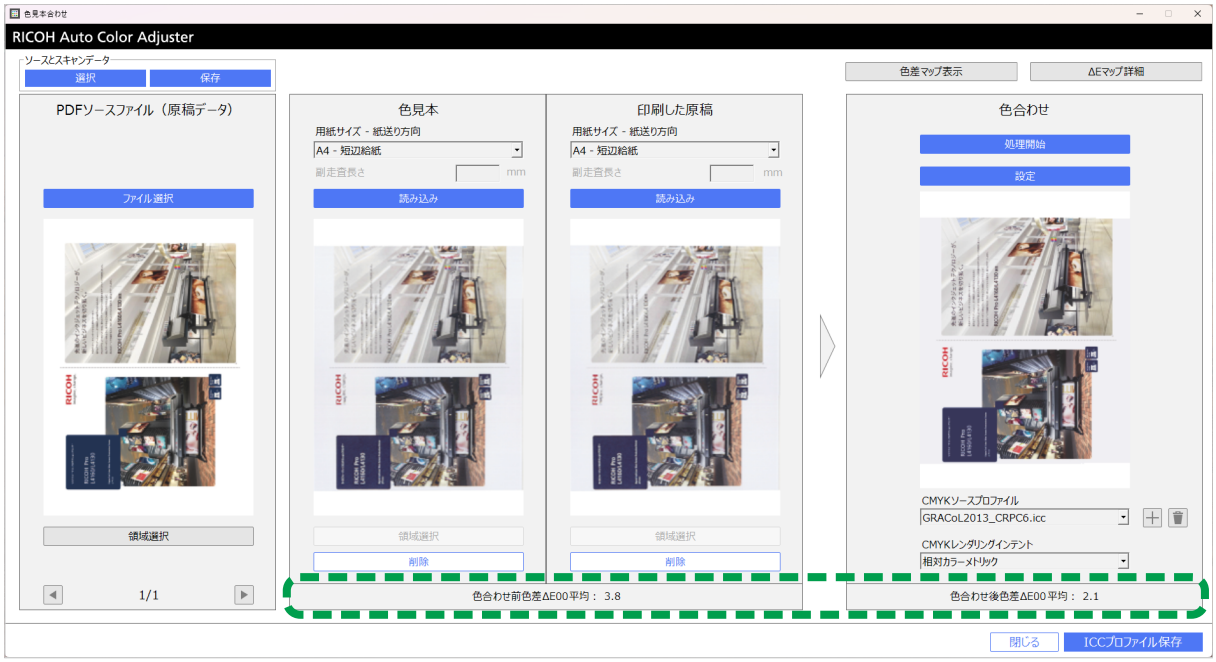
   1. ICCプロファイルを追加するには、［追加］ボタン（＋）を選択します。
   2. 追加したいICCプロファイルを選択し、［開く］を選択します。

5. PDFの印刷に使用されたレンダリングインテントを特定します。印刷ジョブのレンダリングインテントを特定する手順については、DFEのユーザーマニュアルを参照してください。
6. ［色合わせ］セクションで、ステップ「5」で特定した［CMYKレンダリングインテント］を選択します。

補足

- Fieryで印刷中に［印画紙］を使用した場合は、［色見本合わせ］ダイアログで［知覚的］を選択します。
- Fieryで印刷する際に［ビジネスグラフィック］を使用した場合は、［色見本合わせ］で［彩度］を選択します。

7. ［色合わせ］セクションで、［処理開始］を選択します。
色見本処理が開始され、ICCプロファイルが作成されます。処理が終わるまで待ってください。色合わせ処理が完了すると、［色合わせ］セクションに処理された画像が表示されます。
8. 色合わせが適用された後の色差平均計算値を確認します。



補足

- 色差平均計算値は、画像内のすべての画素の色差を平均して算出されます。

9. 色差を色差マップで表示します。

10. 色差の詳細を分析します。
11. **オプション**：PDFソースファイル（原稿データ）とスキャンした色見本の測定データを含むファイルを保存します。
    1. PDFソースファイル（原稿データ）とスキャンした色見本の測定データを含むファイルを保存するには、［色見本合わせ］ダイアログで［保存］を選択します。
    2. データを保存するフォルダーがまだ作成されていない場合は、［フォルダー選択］ダイアログで［新しいフォルダー］を選択します。次に、新しいフォルダーの名前を入力します。
    3. データを保存するフォルダーを選択し、［新しいフォルダー］をクリックします。
       データが選択したフォルダーに保存されます。
12. ICCプロファイルを保存するには、［色見本合わせ］ダイアログで［ICCプロファイル保存］を選択します。プロファイルに割り当てられるファイル名の形式は、*Match_<年><月><日><時><分>.icc*です。必要に応じて変更してください。
13. 色再現性の質を向上させるには、必要な印刷設定で別の原稿を印刷することから始め、［色見本合わせ］処理全体を繰り返します。
14. ［色見本合わせ］ダイアログを閉じるには、［終了］を選択します。

Fieryでの印刷にICCプロファイルを使用する

色合わせ処理で作成されたICCプロファイルを使用して、色見本のカラーを再現します。

補足

- 手順は、使用しているDFEによって異なります。FieryまたはTotalFlow Print Server以外のDFEを使用しているときは、DFEの使用説明書を参照してください。

1. Fiery Command WorkStationを起動し、システム管理者としてログインします。
2. ［サーバー］→［デバイスセンター］の順に選択します。
3. ［リソース］→［プロファイル］の順に選択します。
4. ［インポート］を選択し、［CMYKソースとシミュレーション］を選択します。
5. 作成したプロファイルを選択します。
   「Fiery」にプロファイルがインポートされます。
6. 印刷設定で、［CMYKソース：］フィールドでインポートしたプロファイルを選択します。
7. その他の設定については、原稿の印刷で選択したオプションと同じものを選択します。詳しくは、P. 26 「Fieryを使用して原稿を印刷する」を参照してください。
8. PDFソースファイル（原稿データ）を印刷します。
   印刷されたファイルは、色見本のカラーを可能な限り再現しています。

TotalFlow Print Serverでの印刷にICCプロファイルを使用する

色合わせ処理で作成されたICCプロファイルを使用して、色見本のカラーを再現します。この手順は、TotalFlow Print Server DFE をカットシートプリンターまたはRICOH Pro VC80000と併用する場合に適用されます。

補足

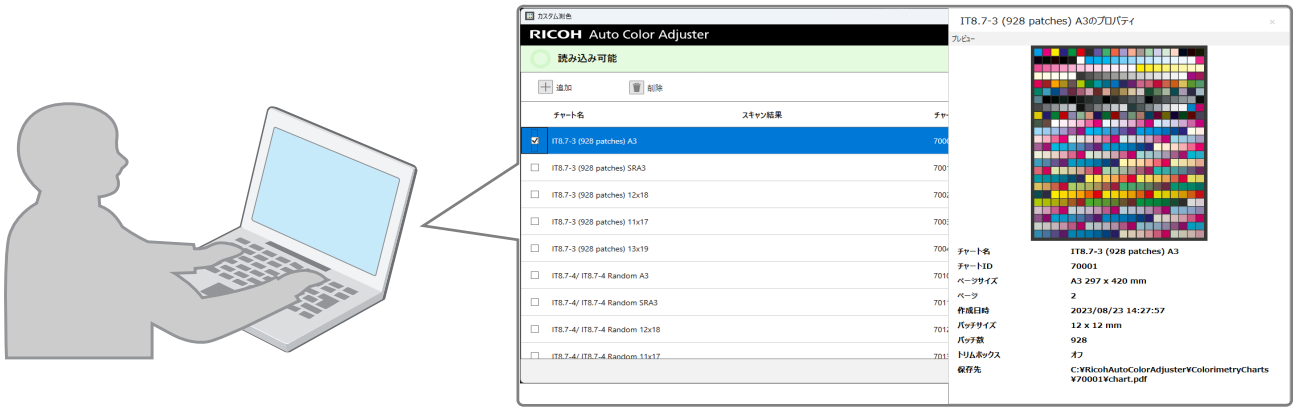
- 手順は、使用しているDFEによって異なります。FieryまたはTotalFlow Print Server以外のDFEを使用しているときは、DFEの使用説明書を参照してください。

1. 管理者権限を持つアカウントでTotalFlow Print Serverを起動します。
2. 設定 ページに移動します。
3. ［カラーマネージメント］→［プロファイル］の順に選択します。
4. ［CMYK入力プロファイル］の横にある［編集］ボタン（✎）を選択します。
5. ［プロファイルのインポート］を選択します。
6. プロファイルのインストールダイアログで、［CMYK入力］を選択します。その後、［OK］を選択します。
7. 作成したICCプロファイルを選択し、［選択］を選択します。
   TotalFlow Print Serverにプロファイルがインポートされます。
8. ジョブページに移動します。
9. 印刷ジョブを選択し、［編集］ボタン（✎）を選択します。
   ジョブプロパティーダイアログが表示されます。
10. ジョブプロパティーダイアログの左ペインで、［カラー］を選択します。
11. ［入力プロファイル］セクションを展開し、［CMYK入力］フィールドでインポートしたICCプロファイルを選択します。
12. その他の印刷設定については、原稿の印刷で選択したのと同じオプションを選択します。詳しくは、P. 27 「TotalFlow Print Serverを使用してカットシートプリンターで原稿を印刷する」とP. 27 「RICOH Pro VC80000を使用した原稿を印刷する」を参照してください。
13. PDFソースファイル（原稿データ）を印刷します。
    印刷されたファイルは、色見本のカラーを可能な限り再現しています。

5. ［カスタム測色］

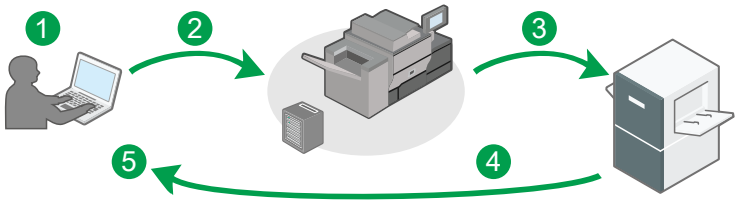
- ワークフローの概要
- カスタム測色チャートを追加する
- チャートの特徴を表示する
- ［カスタム測色］機能を使用する

［カスタム測色］機能では、色、パッチサイズ、ページサイズをカスタマイズしてカラーチャートを作成できます。その後、ターゲットプリンターでカラーチャートを印刷し、出力色を測定することができます。また、標準的な色とページサイズに基づいた定義済みのカラーチャートを使用することもできます。測定結果はIT8形式で保存でき、外部のカラーマネジメントアプリケーションで使用できます。



ワークフローの概要

カスタムカラーでカラーチャートを作成するか、定義済みのカラーチャートを使用します。ターゲットプリンターで測色チャートを印刷し、印刷したチャートをスキャンして色を測定します。測定結果をIT8またはCGATS形式で保存します。保存したファイルをカラーマネージメントなどのアプリケーションに読み込み、ターゲットプリンターのカラー出力を管理します。



1. カスタムカラーでカラーチャートを作成することも、定義済みのカラーチャートを選択することもできます。
2. 測色したいプリンターで測色チャートを印刷します。
3. カスタム測色用の印刷済みチャートを給紙トレイに置きます。
4. ［カスタム測色］機能を使用して、印刷したカラーチャートをスキャンします。
5. 測色結果はローカルドライブに保存されます。

カスタム測色チャートを追加する

測色用のカスタムカラーチャートを追加するには、チャート情報ファイルを作成し、測色チャートのリストに追加します。

カスタム測色チャートを追加するには、以下の操作を行います。

1. テキストエディターを使用して、UTF-8文字エンコーディングでテキスト形式（.txt）のチャート情報ファイルを作成します。チャート情報ファイルに含める情報について詳しくは、P. 34 「チャート情報ファイル」を参照してください。
2. デスクトップアプリケーションのメニューで［カスタム測色］を選択します。
［カスタム測色］ダイアログが表示されます。
3. ［カスタム測色］ダイアログで、［追加］を選択します。
［カスタム測色チャート追加］ダイアログが表示されます。
4. ［参照］を選択します。
5. チャート情報ファイルを選択し、［開く］を選択します。
6. ［トリムボックス］フィールドで、カラーチャートにトリムボックスを含めるかどうかを選択します。［オフ］（デフォルト）を選択すると、トリムボックスは含まれません。トリムボックスを含めるには、［オン］を選択します。

   トリムボックスは、仕上がりシートのサイズを定義するのに役立ちます。トリムボックスが有効な場合、仕上がりサイズはトリムボックスに一致します。このオプションを使うと、面付けを使って、カラーチャートをチャートサイズより大きな用紙サイズに印刷できます。
7. ［OK］を選択します。
8. チャートの作成を開始するかどうかを確認するメッセージが表示されます。［OK］を選択します。
9. 確認メッセージが表示されます。［OK］を選択します。
印刷用のPDFファイルとその他の関連ファイルが作成されます。測色チャートがリストに追加されます。

チャート情報ファイル

チャート情報ファイルの構造は、標準的なIT8ファイルの構造に似ています。チャート情報ファイルは UTF-8文字エンコーディングのテキストファイルです。チャート情報ファイルに以下の項目と値を入力します。

補足

- `C:¥RicohAutoColorAdjuster¥ColorimetryCharts¥SampleChartInfoFiles` にあるサンプルチャート情報ファイルを元に、カスタムチャートを作成することができます。

IT8ファイルのフィールド	値
CHART_NAME	チャート名を引用符で囲んで入力します。例："Measure Sample1"。 CHART_NAME値を入力しなかった場合、またはCHART_NAME行がチャート情報ファイルから欠落している場合、 デフォルトの［カスタム測色チャート］ 名がチャートタイトルとして使用されます。 • 以下の文字の使用は避けてください： /:*?<>¥|" • 文字数：250文字まで。
PAGE_WIDTH PAGE_LENGTH	副走査方向の用紙幅と長さを入力します： • 単位：100（1mm、0.04 inch） • 幅：21000から33000まで • 長さ：21000から48700まで 例297×420mmのA3用紙の場合、PAGE_WIDTHを29700に、PAGE_LENGTHを42000に設定します。12.6×17.7インチのSRA3用紙の場合、PAGE_WIDTHを32000に、PAGE_LENGTHを45000に設定します。
PATCH_WIDTH PATCH_HEIGHT	カラーパッチの幅と高さを入力します： • 単位：100（1mm、0.04 inch） • 最小値：700 • 最大値：1500 例：7 x 7 mm のパッチの場合、PATCH_WIDTHとPATCH_HEIGHTの両方を700に設定します。
NUMBER_OF_PATCHES	カラーチャート上のカラーパッチの総数を入力します。 例：200
COLOR FORMAT	CMYK BEGIN_DATA_FORMAT SAMPLE_ID CMYK_C CMYK_M CMYK_Y CMYK_K END_DATA_FORMAT
BEGIN_DATA END_DATA	カスタム測色チャートで使用する色を入力します。各行には、カラーパッチを定義する値が、タブ文字を使って区切られて含まれています。 • 1列目：カラーパッチの識別子。チャート情報ファイル内で一意に定義されています。識別子には空白を使用しないでください。 • 2列目：シアンに対応する0から100までの整数値。 • 3列目：マゼンタに対応する0から100までの整数値。 • 4列目：イエローに対応する0から100までの整数値。 • 5列目：ブラックに対応する0から100までの整数値。 BEGIN_DATA行とEND_DATA行の間に、NUMBER_OF_PATCHES値で指定された数の色定義を入力します。 例： BEGIN_DATA 1 70 40 10 0 *...この例には2-199の値は含まれていない* 200 10 100 30 0 END_DATA

チャート情報ファイルの例

```
CHART_NAME "Measure Sample1"
PAGE_WIDTH 29700
PAGE_LENGTH 42000
PATCH_WIDTH 700
PATCH_HEIGHT 700
NUMBER_OF_PATCHES 200
COLOR FORMAT CMYK
BEGIN_DATA_FORMAT
SAMPLE_ID CMYK_C CMYK_M CMYK_Y CMYK_K
END_DATA_FORMAT
BEGIN_DATA
1 70 40 10 0
2 100 20 10 10
3 80 80 100 10
...
200 10 100 30 0
END_DATA
```


チャートの特徴を表示する

［カスタム測色］ダイアログで、さまざまな用紙サイズとさまざまなカラーパッチを使用したカラーチャートを使用して、プリンターが生成する色を測定します。

補足

- 測色用チャートのリストには、IT8.7-3、IT8.7-4/ IT8.7-4 Random、IT8.7-5/ TC1617、ECI2002/ ECI 2002 Random、Idealliance Control Strip 2009、Idealliance Control Wedge 2014、およびその他の標準化されたカラーチャートが含まれています。事前に定義されたカラーチャートのいずれかを使用して、準拠を目指す標準に対してターゲットカラーを測定します。

チャートの特徴を表示するには、以下の操作を行います。

1. ［カスタム測色］ダイアログで、表示したい測色チャートの横のチェックボックスを選択します。
2. ［情報］ボタン（ⓘ）を選択します。
   選択したカラーチャートのプレビューと特徴が表示されます。

［カスタム測色］機能を使用する

［カスタム測色］機能を使用して、定義済みまたはカスタムのカラーチャートの助けを借りて、印刷されたテストチャートの色を測定します。

［カスタム測色］機能を使用するには、以下の操作を行います。

1. ［RICOH Auto Color Adjuster］ダイアログで、［カスタム測色］を選択します。
2. カスタム測色チャートを使いたい場合は、カラーチャートを作成して［カスタム測色］ダイアログに追加します。詳しくは、P. 34 「カスタム測色チャートを追加する」を参照してください。
3. ［カスタム測色］ダイアログで、［チャートID］列をチェックして、測色チャートのIDを表示します。
4. チャートIDを元に、C:¥RicohAutoColorAdjuster¥ColorimetryChartsフォルダーに格納されているPDFを探します。
5. PDFをターゲットプリンターで印刷します。

重要

- バージョン1.5.2.0以前から移行した場合は、必ず現在のアプリケーションバージョンで生成された新しいカラーチャートを印刷してください。

6. カラー測定チャートを、スキャナーの給紙トレイに、印刷面を上にして置いてください。詳しくは、P. 15 「給紙トレイに原稿またはカラーチャートをセットする」を参照してください。
7. ［カスタム測色］ダイアログで、スキャンしたい測色チャートの横にあるチェックボックスを選択します。［読み込み］を選択します。
8. ［カスタム測色測定］ダイアログで、測定設定を選択します。

1. **オプション**：［ファイル名］フィールドに、測定結果のファイル名を入力します。このフィールドを空のままにすると、ファイル名が自動的に割り当てられます。

補足

- 同じ副走査長で複数の測色用チャートを選択した場合、［ファイル名］フィールドは無効になり、ファイル名が自動的に割り当てられます。
- 自動的に割り当てられるファイル名は、*チャート名＋<年><月><日><時><分><秒>*というテンプレートで、*<年><月><日><時><分><秒>*はスキャン実行時のタイムスタンプです。

2. ［参照］を選択し、ファイルの保存先フォルダーを選択します。
3. カスタム判定ファイルを保存するかどうかを選択します。［カスタム判定ファイルを保存］のチェックボックスを選択すると、保存されたファイルはWebアプリケーションの［カラーチャート追加］および［カラーチャート編集］ページの［カラースペース］リストに表示されます。

補足

- このチェックボックスは、定義済みチャート（Fogra Media Wedge V3.0、Idealliance Control Wedge 2013、Japan Color Control Strip）のいずれかを選択した場合のみ有効です。

4. ［M0］（A）、［M1］（D50）、［M2］（A+UVカット）オプションの中から［照明条件］を選択します。

5. ［測定のためのカラーモデル］フィールドで、測定に使用するカラーモデルを［Lab］、［LCh］、［XYZ］、［分光］、［濃度（ステータスT）］、［濃度（ステータスE）］ の中から選択します。

6. ［ファイルフォーマット］フィールドで、保存ファイルの形式が［IT8］ (*.it8) か［CGATS］ (*.txt) かを選択します。

9. ［OK］を選択します。
［チャート読み取り］ダイアログが表示されます。

10. ［チャート読み取り］ダイアログで、［読み取り開始］を選択します。
スキャナーは測色用チャートのスキャンを開始し、選択したフォルダーに測色結果のファイルを作成します。

6. こまったときには

•用紙詰まり

用紙詰まりを特定し、解決します。

用紙詰まり

以下のメッセージが表示されたら、スキャナーの前ドアを開け、中の用紙を取り出します：「ドアを開け、中の原稿を取り出します。」

詰まった用紙を取り除く方法は、スキャナーの前ドアの内側に印刷されています。詳しくは、「RICOH Auto Color Adjuster：ユーザーガイド」を参照してください。

重要

- 詰まった用紙を取り除く間、スキャナーの電源を入れたままにしてください。
- 詰まった用紙が破れないように、ゆっくりと均等に引き出してください。
- 詰まった用紙を取り除く際、スキャナー内に残った小さな破片が再び用紙詰まりを起こしたり、故障の原因となることがあるため、破らないようにしてください。
- 紙が破れた場合は、欠落がないように再度組み立ててください。欠けた破片がスキャナー内部に残り、問題を引き起こす可能性があります。すべての部品が見つからない場合は、サービス担当者にお問い合わせください。
- 詰まった用紙を取り除いてもメッセージが消えない場合は、スキャナー内部に用紙が残っていないか確認してください。

Copyright © 2021 - 2026 Ricoh Company, Ltd. All rights reserved.

株式会社リコー

東京都大田区中馬込1-3-6　〒143-8555
http://www.ricoh.co.jp/

お問い合わせ

お買い上げいただきました弊社製品についての操作方法に関するお問い合わせは、お買い上げの販売店にご連絡ください。

転居の際は、販売店にご相談ください。転居先の最寄りの販売店をご紹介いたします。

RICOH Auto Color Adjuster　クイックガイド

JA JP　2026年10月　M5827011A

M5827011A